

◎基本情報

事務事業名	学校給食のセンター化事業		担当部署	教育委員会 教育総務課	
総合計画体系			根拠法令 計画など	学校給食法、衛生管理基準	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業 期間	開始	平成 <input type="text" value="20"/> 年度
政策(中項目)	3	たくましく生きる力を育むまち なんと			終期
(小項目)		教育行政			
施策	1	教育行政の充実			
基本事業	5	学校給食の充実と食育の推進			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 児童・生徒・園児						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	今後も引き続き安全・安心な給食を安定的に実施するためには、給食の提供方式を現在の自校調理方式から共同調理方式へ移行することが望ましいと判断し、学校給食衛生管理基準等に適合した新たな新給食センターを市内に建設する。						
事業計画	28年度に何を計画していたか	○建築工事 ○センター方式に対応した、アレルギー児への対応マニュアルの策定。 ○食材供給システムについての検討。 ○周辺の住民から要望があった事項への対応実施。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
		新給食センターの建設	本体工事に着手	本体工事に着手	新センター稼働	/	/	

◎実施結果(DO)

事業実施内容	28年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	新給食センターの本体工事に着手するとともに、厨房機器や配送車を納入する業者の選定を行った。学校給食の運営については、施設の運営体制を確立するとともに、会計処理やアレルギー体制についての方針を定める鳴門市学校給食運営計画を策定し、稼働に向けた準備を進めた。また、安全で安心な食材の確保を図るため、納入業者の審査登録制度を設けた。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
活動指標	1 予定地周辺住民、保護者、関係者への説明	27年度実績	28年度実績	29年度目標	30年度目標	31年度目標	単位
	2 実施設計・整備工事	文書による周知	予定地周辺住民への説明	新センター稼働に係る周知	/	/	
成果指標	新給食センターの建設	現存建物の解体撤去	本体工事に着手	工事完了・稼働開始	/	/	
	目標達成率(実績/目標)	/	本体工事に着手	-	-	-	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況			計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成28年度	当初予算額	227,894	0	1,346,600	0	147,506	1,722,000
		補正予算額	△ 14,918	0	△ 81,000	0	95,409	△ 509
		繰越予算額	69,002	0	465,300	0	396	534,698
		全体予算額	281,978	0	1,730,900	0	243,311	2,256,189
		決算額	60,167	0	381,800	0	3,395	445,362
		繰越額	212,976	0	1,265,300	0	240,941	1,719,217
	人件費	正規職員(7,133千円/人)	臨時職員(2,043千円/人)		総人件費		総事業費	
		1.0	0.0		7,133		452,495	

【鳴門市行政評価】

【事務事業名：学校給食のセンター化事業】

事業費推移	年度	27年度決算	28年度決算	29年度	30年度	31年度
	事業費	45,638	445,362	184,200		
	うち一般財源	38	3,395	63,100		
	人件費	6,859	7,133	7,133		
	総事業費	52,497	452,495	191,333		

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		安全・安心な給食を安定的に提供するために、必要な事業である。
	効率性	A:効率的だった		国の交付金を活用し、効率的に事業を実施することができた。
②成果に対する評価	指標名	新給食センターの建設		給食センターの本体工事に着手するなど、当初の計画どおり稼働に向けた準備を進めることができた。
	目標	本体工事に着手	0	
	実績	本体工事に着手	0	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		A		説明会等を通じて周辺住民の理解を得ながら、当初の予定どおり事業を実施することができた。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	給食関係者や関係機関等との連携により、安全・安心な学校給食を提供できる体制の整備を図る。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H29年度	給食センターの稼働に向け、各学校の給食室を配膳室に改修する受配校整備を進める。			
	H30年度				